

第 2 回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会

平成26年 7 月 7 日

第2回 神戸の都心の『未来の姿』検討委員会

1 日時 平成26年7月7日(月) 午前10時～午後0時05分

2 場所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3 出席者

【委員(27人)】

(1) 地元組織代表

浅木隆子	小田俱義
久野茂樹	久利計一
坂本圀昭	清水俊博
永田耕一	奈良山貴士
古川勝	松添雄介
三浦繁男(代理:上田)	

(2) 市民代表

岩佐光一朗

(3) 交通事業者代表

庄健介	平野剛
宮本一郎	湯山佐世子
横山章	上杉雅彦

(4) 経済団体代表

植村一仁	植村武雄
松田茂樹	

(5) 学識経験者

小谷通泰	加藤恵正
末包伸吾	柚木和代
関根千佳	長町志穂

【オブザーバー(3人)】

国土交通省	林良太郎
兵庫県	笠尾卓朗

4 議事

- (1) 第1回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明
- (2) 「神戸らしさ、神戸の強み」についての意見交換

5 議事の内容 別紙のとおり

## 1. 開会

○三島都心三宮再整備担当部長

皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

まず、開会に先立ちまして、委員の皆様方に一点ご確認させていただきたいことがございます。

本日、報道機関より当委員会の会議風景を撮影したい旨の申し入れがございましたので、議事に入るまでということでも許可したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○三島都心三宮再整備担当部長

異議がないようでございますので、撮影を許可することといたしたいと思います。

報道機関の方は、撮影をしていただいて結構です。議事に入るまでということでもよろしくをお願いいたします。

それでは、ただいまより第2回神戸の都心の『未来の姿』検討委員会を開催させていただきますと思います。

私は、住宅都市局計画部の都心三宮再整備担当部長の三島と申します。事務局といたしまして、進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、これより委員会を進めるに当たりまして、まずはお手元の資料を確認させていただきますと思います。

次第と会議資料につきましては、事前に送付させていただいております。本日、資料をお持ちでない方がいらっしゃいましたら、おっしゃってください。

それと、本日の配付資料といたしましては、事前に配付させていただいた資料1の委員名簿に訂正がございましたので、修正した資料1と、参考資料といたしまして、今回議論をいただく都心部の地図、また長町委員より本日の議論に際しまして、夜間景観に関する資料が提出されておりますので、配付いたしております。

その他といたしまして、本日、時間の関係で言い足りなかったことがございましたら、ご意見を記入していただいて提出いただく用紙を配付いたしております。

資料1につきましては、上から2人目のフラワーロード沿道まちづくり協議会の小田会長のお名前の振り仮名が間違っておりました。大変失礼いたしました。また、下から3人目の大阪市立大学の中尾先生ですが、役職が特任教授から特命教授に変わっております。

## 2. 委員の紹介

○三島都心三宮再整備担当部長

続きまして、本日まで出席いただいております委員の皆様方のご紹介は資料1、委員名簿をご覧ください。ことば省略させていただきます。

なお、前回から名簿上変更のあった方のみ紹介させていただきます。

配付資料の修正版の資料1、委員名簿をご覧ください。役職名等は省略させていただきます。

まず、地元組織代表の委員です。南京町景観形成協議会は、高橋委員から曹委員に変わっております。本日は、欠席でございます。

続きまして、ハーバーランド運営協議会は、松下委員から松添委員に変わっております。

○松添委員

松添でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

次に、交通事業者代表の委員でございます。西日本旅客鉄道株式会社の奥田委員から平野委員に変わっております。

○平野委員

平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

神戸市交通局の小林委員から宮本委員に変わっております。

○宮本委員

宮本と申します。よろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

阪神電気鉄道株式会社の石原委員から湯山委員に変わっております。

○湯山委員

湯山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

変更は以上でございます。

なお本日、曹委員、富岡委員、玉田委員、小浦委員、中尾委員、牧委員はご欠席というご連絡をいただいております。

次に、オブザーバーといたしまして参加いただく方をご紹介します。

国土交通省の林様です。

○林委員

林と申します。よろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

兵庫県の笠尾様です。

○笠尾委員

笠尾でございます。よろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

兵庫県警察本部の杉山様ですが、本日は、代理の稲田様にご出席です。

○稲田委員

稲田です。よろしくお願いいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

出席者のご紹介は以上でございます。

報道機関による撮影はここで終了とさせていただきます。

ここからの進行につきましては、加藤会長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 3. 議事

#### (1) 第1回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明

○会長

皆さんおはようございます。

前回、第1回目は大変活発な、貴重なご意見をたくさん頂戴いたしまして、ありがとうございました。

事務局のほうで、今回の資料として整理していただいております。このあたり、これから説明をしていただく中で、さらに今回、第2回目ということで議論を深めていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ですけれども、配付されております議事次第に従って、進行させていただきたいと思っております。

議事次第(1)の第1回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明を事務局のほうからお願いいたします。

○若林都心三宮再整備担当課長

住宅都市局計画課の都心三宮再整備担当課長の若林と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、第1回検討委員会の振り返り及び会議資料のご説明を簡単にさせていただきますと思います。

事前にお配りしておりました資料2をご覧くださいと思います。

これは、第1回検討委員会の議事要旨となります。第1回検討委員会では、委員の皆様から神戸の都心のよいと思うところ、またよくないと思うところ、そして、私が思う神戸の都心の「未来の姿」について、たくさんご意見を頂戴いたしました。

ご意見の内容等につきましては、配付させていただいている資料のとおりでございます

ので、詳しいご説明は割愛させていただきます。

次に、資料3をお開きください。

前回は神戸の都心の「未来の姿」の提案募集の結果のご報告をさせていただきましたが、さらに少し整理させていただいたものでございます。

前回の委員会でご提示いたしました整理内容から変更点が2つございます。1つ目は、いただいたご意見、提案募集の結果に加えまして、前回、第1回検討委員会でのご意見、また市長への手紙といったご意見もございますので、この部分を追加させていただいております。

2つ目は、このいただいたご意見を客観的に整理するために、テキストマイニングという手法を用いまして整理させていただきました。テキストマイニングというものは、テキスト、すなわち文章等であるデータを「単語」や「文節」で区切りまして整理する手法でございます。

そういった手法で、景観やにぎわいといったカテゴリー別、また、新神戸や三宮、元町といった地区別に整理いたしております。その際、カテゴリーの分け方につきましては、前回から「産業」と「防災」といったカテゴリーを追加してございます。

それとA3の資料で神戸市全体と書かれているところが、神戸の都心全体の誤りでございました。訂正させていただきます。

次に、資料4をお開きください。参考資料といたしまして、世界の他都市の再整備の事例を挙げてございます。この資料は、各事例につきまして、都市の規模を示す人口、面積、密度、また都市の強み、再整備の基本方針だとか、具体的な取り組み内容を整理させていただいたものでございます。

今回、整理させていただいた整理事例につきましては、3つの視点で選んでいます。

1つ目は、それぞれの都市の強みを生かしましたまちづくりを実施されており、成功した都市だと感じられたものです。

2つ目は、新興国のような経済成長が著しい都市ではなくて、成熟した都市を挙げさせていただいております。

3つ目は、首都のような特別な都市機能を有しておらず、神戸市と人口等の規模が同程度のものを選んでおります。

このような世界の他都市の事例につきましても、今後のご議論の参考にさせていただければと思います。

第1回検討委員会の振り返り及び会議資料の説明につきましては、以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

ここまで皆様から何かご質問、あるいは、ご意見がありましたらいただいております。と思っておりますけれども、いかがでしょうか。

基本的には前回皆さんにご発言いただいたことが整理されているのがこのA3裏表の資料で、一応ご覧いただいたかと思うのですが、こういう方向で表し、整理したらいいんじゃないかということも含めて、もし思いつかれたことがありましたらお伺いしたいと思います。よろしいでしょうか。

これにつきましては、随時お気づきのときに、ご発言いただければと思いますし、また会議が終わりましてから事務局のほうに、直接ご指示いただいてもいいかと思うので、またご覧いただけたらと思います。

## (2) 「神戸らしさ、神戸の強み」についての意見交換

### ○会長

そうしましたら、今日皆さんにご議論いただきたいということで、「神戸らしさ、神戸の強み」についてという意見交換のテーマを設定しております。

この設定の背景について事務局からご説明をいただけますでしょうか。

### ○三島都心三宮再整備担当部長

前回の検討委員会におきましては、都市の未来に対する提案など、たくさんのご意見をいただいております。整理させていただいたように、多くの分野、多くの市域に対する皆さんの想いを頂戴したという形になっております。

今後の神戸の都心の未来の姿を考えていくということで、将来のビジョンとしての夢のある施策をまとめていくに当たりまして、やはり誰もがわかりやすく、共通して認識できるまちづくりのコンセプトが必要だと感じております。

このコンセプトをつくることによりまして、今後、神戸を国内外にアピールするときに、非常に大切な役割を持つてくると思っております。また、それを打ち出すことで、神戸のまちが特色ある魅力的なものになると考えております。

そういったことから、今回の検討委員会の目的といたしましては、神戸について誇りに思っていることや、今、そして今後、伸ばしていきたいということについて、神戸のアピールポイント等、これからの神戸の都心を考える上で最も大切にすべき「神戸らしさ、神戸の強み」についてご意見をいただくこととさせていただきます。

この「神戸らしさ、神戸の強み」を基本といたしまして、将来ビジョンの方向性や枠組み等を検討し、具体的な施策につなげていきたいということを考えております。

### ○会長

ありがとうございました。

「神戸らしさ、神戸の強み」については、前回、第1回目の会議のときにも皆さんのほうから、いろんな視点でご提案、ご発言をいただいたところです。前回の議事録や市民の皆さんからの意見を整理していく過程で、やはり神戸らしさというのか、固有の魅力、他

の地域にはない強み、ひいては競争力ということになってこようかと思えます。このあたりはどのようにお考えなのかについて、今日は一歩進めて、より具体的にそれぞれの皆さんのお立場からのご発言をいただければということで、テーマの設定、議題の設定をさせていただいたところでもあります。

前は順番にご発言いただいたのですが、今日は自由に挙手いただいでご発言いただくということにさせていただきたいと思えます。

できる限りたくさんの方にご発言いただきたいので、申しわけないのですが、時間があれば複数回のご発言も可能かと思えますが、お一人3分くらいでまとめていただければと思っております。

そうしましたら、お気づきの点、あるいは一言言っておかなければということがありましたら、ぜひともご発言いただきたいと思えます。どうぞよろしく願ひいたします。

#### ○委員

神戸の都心部の大きな特徴は、いろいろな個性豊かな地区がコンパクトに点在しているということなんですが、私はそれらの地区（点）をいかにネットワーク化させていくかということが非常に大事かと思えます。

点をネットワーク化させることによって、面として、エリアとしての魅力をつくり出していくということが、非常に重要なポイントになるのではないかと思えます。そのためには、そういったネットワークを形成していく、面としての広がりをつくっていく上で、移動の仕組みをどういうふうにつくり出していくか。従来の交通手段もそうですけども、いろいろ工夫を凝らした魅力ある、移動の手段をつくっていく必要があります。

その中で、一番大事なことは、歩行者空間の整備だと私は思っています。私の研究室で調査したのですが、現時点では、都心部への来街者は、各鉄道駅を中心に、平均して、概ね1,500メートルぐらいの距離しか回遊していません。滞在時間も大体4時間くらいで、訪問先も3カ所くらいです。それでは、余りにももったいないといひますか、惜しいと思ひます。どのようにすれば歩いて少しでも遠くに、広い範囲に足を運んでもらえるか、また、滞在してもらえるか。こうしたことについては、交通の面から考えることがたくさんあるのではないかと考えております。

#### ○会長

ありがとうございます。

移動の問題、特に歩行者について、ご専門ですのでお話をいただきました。

#### ○委員

私の専門は、ユニバーサルデザインです。ご高齢の方、女性、子供連れ、そして外国からの旅行者、障害のある方などの移動のしやすさや、情報提示のわかりやすさなどを専門としております。

今、おっしゃったとおりで、いかに回遊性を高くし、できるだけ長く滞在していただけるかという点では、神戸のまちは、仕掛けが少し足りないかなと思います。

例えば、飛騨高山ですと、80カ所以上に「誰でもトイレ」があり、それも非常に美しいデザインです。これで、ご高齢の方や妊産婦などが街に長く滞在できるのです。このようなユニバーサルデザインのまちづくりを神戸でもしていただきたいというのが一番大きなお願いです。

政府のほうでも今後、2020年までに外国人観光客を2,000万人にしようとしております。これは、オリンピック、パラリンピックの開催される東京のまちづくりでよく出てくる数字なのですが、同じ年に日本の高齢者人口は3,300万人になります。単純合計はできませんが、外国人観光客数と合わせると、実に5,000万人を超えます。言ってみれば、大半のお客様が情報・移動困難者であることを前提にしたまちづくりをしなければ、日本の観光業は成り立っていかないという現状があるわけです。

その意味でも、ベビーカーを押している人、トランクを持っている人などが問題なく回れるような、大変アクセシブルなまちにしていくというのが、今後の神戸には必要なのではないかと思います。

また、情報提供もWi-Fiインフラ提供を含め、4カ国語対応で行うことは本当に必須だと思いますし、三宮など駅前の観光センターも初めての観光客にはわかりにくいので、位置を変更したり、幾つかに分散していただくと非常にありがたいと思います。

○会長

神戸は京都と違って、坂のまちですが、そのあたりはどうしたらいいんですか。

○委員

私は長崎の生まれなので、その辺の課題もわかるのですが、坂を歩いて楽しいところというのをPRしていけばよいと思います。京都のお寺も、女坂を別に設けて、こちらの方に行ったらスロープで楽に行けますよというルートを提示しているところもあります。

ハーバード大学やMITでも、歴史的な建造物も含めて、表側は階段でも裏側にはスロープを入れています。今、同志社大学でも、明治時代の歴史的建造物を何らかの形でユニバーサルデザインにしていこうとしております。このように、階段は残したままでも何らかの形でアクセシブルルートを確保する。そして、この坂も、裏側からタクシーで行けば、ちゃんと夜景が見えるんですよというふうに、必要な情報を提示することが大事だと思っています。

○会長

ありがとうございます。

ほかに、いかがでございましょうか。

○委員

数年前、研究室におりましたときに、神戸のイメージというのを調べようと思いました。

具体的にどうやったかと申しますと、今回のテキストマイニングと似ているんですけども、一つは絵はがき、もう一つは観光旅行ガイド、そこに神戸のまちの風景としてどういうものがあらわれているのかということの一つのひな形として使いました。

そうしますと、結果的に出ましたのは、この皆さんのテキストマイニングもよく似た結果があらわれていると思うのですけれども、一つは、北野異人館です。ただ、これは一つ一つの建造物があらわれており、ある意味で点です。それから、もう一つが旧居留地と南京町で、これは点と線、両方が出ております。それからウォーターフロントで、これは面であり、必ず背景に山がある。それからもう一つが、夜景景観、特に眺望景観です。これは、何が出ているかということ、海と山が両方出ています。

今回の検討範囲、都心の未来ということでは、個々の点ということでは、それぞれ強みが出ているかと思うのですけれども、それらの一番中心にあるのは三宮です。三宮の駅というのは、海と山が非常に近く、双方は2キロぐらいの範囲にあるという、先ほど申し上げた4つの点の結節点に当たるようなところなんです。

ところが、駅前に降り立ってみても、例えば、海と山の近さであるとか、あるいは、神戸の都市イメージみたいなものがなかなか描きにくいのです。

そういうことからしますと、点のそれぞれの強化とともに、駅前空間の理想像というものをきっちり掲げて、ある意味で21世紀の神戸の新しい姿を神戸に降り立った瞬間に、来客の方や市民の方に見せられるようなことが、今後望まれていくのではないかという私見を持っております。

○会長

ありがとうございます。

三宮の周辺のあり方というようなところを、言及していただきましたけども、ほかにかがでございましょうか。

経済界からこういうご提案もされていらっしゃるんですけども、いかがでしょうか。

○委員

先生方からお話があったことと全く同感でございまして、神戸は面を見て、いろんな魅力的なスポットがたくさんありますので、それが神戸の強みだろうと思います。

要は、テーマパーク的なものがどんとあって、そこに集中的に人を集めるということよりも、非常にコンパクトにまちが広がっていますから、面で受けとめることができる、そういう魅力を持っているということだろうと思います。

しかも、山も海もあり、歩ける範囲にいろいろなものがあります。それで、大事なことは、魅力というのは何かということになってまいりまして、観光客を含めて、外から来られる方にとっての魅力と、神戸市に住んでおられる方、都心部に住んでいる方という意味ではなくて、神戸市の周辺、阪神間や北区、西区、須磨区、垂水区を含めまして、そういう人たちにとっての魅力がどういうものかということもよく考えて、そういう魅力を育てつく

っていくという視点をもって、議論すべきであると思います。

例えば、文化的な面でいいますと、美術館等も含めて、民間のミュージアムとかいろいろな施設があります。それで、ミニコミ誌やホームページなどにアクセスすれば、情報が入ってくるんですけども、住んでいる方にとっての都心の魅力というのは、やはり文化的なものに出会えるということがあるだろうと思います。この文化施設や、あるいは、いろいろな寺院、神社仏閣などがありますので、そういったものの魅力は何か。また、グルメでは、パンがおいしいなどいろいろありますが、まずは、住民ベースでの魅力とは何かを一回よくお考えいただいて、それを追求していけば、外から来られる方にとっても魅力的なまちになるんだろうと思います。

私どもが、先日提言しましたから、それについて申し上げれば、三宮が、都心の顔としての役割も含めて、玄關的な姿になっていないと、ごちゃごちゃしているだけになります。時代の変化とともに、次から次に継ぎあてをしながらやってきたため、こういうことになっていると思っています。

したがって、いろいろなテーマがあると思いますが、三宮をどうするのか、ターミナルとしての機能をどう考えるのか、ということが一番大事なテーマになってきてほしいなと思っています。

それから、やはりメンテナンスをきちんとしましょう。公共もメンテナンスにもっとお金をかけて、住民にとって自慢できるきれいなまちにしようじゃありませんか。きれいということは、小ざっぱりしているという意味であって、何もデザイン的にすごいということまで頑張る必要はないと思います。昔だったらどの家庭も自分の家の前は、水を打ったり、ほうきで掃除してすっきりさせていました。今は、そんな時代ではありませんけれども、メンテナンスをきちんとすることを大事にしていれば、それが神戸のまちの魅力、町並みの魅力につながっていくんだろうと思います。

○会長

ありがとうございます。

事務局で整理していただきました、このA3の資料を見ましても、景観についての意見がとても多いんです。そういう意味では皆さんの関心が、今、ご指摘のように、意見の集約を見ているとそのあたりにも非常に焦点が当たっていると、とても感じます。ただ一方で、きれいだったらいいのかということも、我々が思うところで、これまでいわば神戸のエンジンであった都心における、きれいな景観のあり方や、集客性などと、どのように結びつけながら神戸を牽引していく核にしていくのかということも気になるころではあります。

また、実は市民の目線というのが気になるというお話だったんですが、市民の目線から見て、都心の強み、神戸の強みというのは、どうでしょうか。

○委員

私自身、市民でという立場で申し上げるなら、美しいだけでは、良いまち、住みよいまちではないと思います。他都市の例が示されていますが、やはり神戸も古い歴史がありますので、その歴史をうまく生かしながら新しいものをつくり上げていくということは、大切なことではないかと私は思います。

そのために案内図、案内標識はきちんとしたものをつくっていただく。例えば三宮駅で降りてバスで、どこかに行くのに、どこで乗ったらいいかわからないことが非常に多いです。

だから、よそから来た人にもわかりやすく案内標示をしていただくことも含めて、お年寄りや、体の不自由な人もまち歩きがしやすいように、ユニバーサルデザインの面も含めて考えていただきたいと思っております。

以上です。

#### ○会長

ありがとうございます。

実際地域でお仕事をされております皆さんもいらっしゃいますので、どうぞお願いします。

#### ○委員

都心の話が出ていますので、三宮の開発の話も出てくると思いますが、今のうちに、三宮駅周辺のスカイラインというか、建物の高さのある程度きちんとしないといけないと思います。駅を降りてからビルの高さがそろっていないというのがまちの景観として一番汚いので、今後三宮周辺の開発をするときには、神戸という特色を生かして、べたっとした屏風のような建物ではなく、必ず海が見えたり山が見えたりする、デザインにしていきたいと思います。それと観光についてですが、今、関西空港からはシャトルバスが出ていますけど、何とか関空と神戸空港を海底トンネルでつないでもらえば、波の影響でストップすることもないので、大阪から神戸に行けます。国際線の飛行機というのは、意外とどんな天候でも着くのでトンネルをつくっていただき、あっという間に神戸のまちに、三宮のほうに着くようにしていただくと、もっと有効じゃないかと思えます。

それと、皆さんがもし外国人になったつもりで、神戸のまちを歩いてみると、標示が非常に悪いと感じると思います。日本人はわかるけど、外国人はさっぱりわからないという標示が多いです。観光案内についても、一枚の紙に何か国語も書くと、お年寄りの方は見えないんです。自分の国の言葉をきちんと書いたものが、きちんと標示されてあれば、それを取って観光しますし、そして大事に持って帰ります。5カ国も6カ国も1枚の紙に書いているものは捨てて帰ります。海外では、国旗がついた観光案内書があり、自分の国のものを持って、旅行します。そういう親切が神戸には少し足りないのではないかと思います。

また、神戸は、山や海など自然がすぐそばにあります。観光船で来られる人は、ずっと

海ばかり見て、やっと陸に着いたときにバスに乗せられて、また都会へ走るより自然も見たいと思うので、六甲山や布引の滝など神戸の自然をアピールすればよいと思いますが、宣伝が足りないと思います。北野にもよく来ていただきますが、北野も今、いろんな問題点を抱えていまして、もう少し変化していこうとプロジェクトを組み直しています。

もう一つ言わせていただくと、神戸に来られた外国の方は三宮界限でお買い物をする人が多いので、完全な免税措置ができるようなところを、センター街や元町に3、4カ所つくれば滞在が延びてきます。ですので、簡単に空港で税金のリファウンドができるように、財務省とか国交省、外務省などに働きかけて、やはりお買い物は神戸でしょうというぐらい、町ぐるみで免税ができるようなところができたらいいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。

三宮の動きを含めて都心全体の未来の姿を考えましょうということで、この委員会が設置されているわけですが、都心の未来の姿というどうしてもハードの整備のほうにやや目が向きがちですが、委員から、ハードだけじゃなくて、ソフトも同時に必要なんだというご指摘を伺いました。

ほかにいかがでしょうか。

○委員

皆さん方に、ひとつ基本情報を提供して、今後のこの委員会、さらにはそれを実務に落とす際のワーキンググループの参考にしていただきたいという意味で申し上げたいと思います。

実は、昨年11月に交通政策基本法、それから今年5月に、それと密接に関連します地域公共交通活性化再生法、いずれも国会で法案が成立しております。これは、簡単に申し上げますと、移動制約者を含めて全ての国民の、移動の円滑化を図るとというのがコンセプトになっている法律です。

そして、従来、私ども民間が主に交通政策を担ってきておりますが、活性化法ではそれを本来あるべき自治体が主導になって、ただ単に交通だけの問題ではなく、まちづくりの施策と連携しながら進めていくという内容です。これが非常に大事になってきますので、こういう法案が成立したとかいつまで申し上げました。

今後、委員会の答申の後、当然ワーキンググループで実務に落としていくわけですから、そのときに国交省のほうでかなりの予算づけをしてくれていますので、それらをぜひ有効に活用していただきたいというお願いをしておきます。

1回目の議事録を見ますとバスターミナルの問題、さらにはLRT、BRT、トランジットモールの話がどんどん出ており、こういうものに全部使いますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。これは意見交換の冒頭の内容に完全にマッチングしております。

○会長

ありがとうございます。

国交省のことが出ましたが、何かありましたらお願いします。

○オブザーバー

今、おっしゃっていただいたとおり、今年の国会で地域公共交通活性化の法律と、一緒に都市再生特別措置法も改正になりまして、この施行は恐らく来月くらいになると思います。ご存じかと思いますが、国土交通省はもともと建設省と運輸省と分かれていまして、縦割りが激しかったのですが、そういった意味で今回の都市再生特別措置法というまちづくりの法律と、交通の法律ということで、昔の建設省と運輸省が一体となって、まちづくりと交通を深めていいまちづくりをしていこうという、我々としては画期的な改正ということになっています。地域構造を非常に大事にしていこうということもあるのですが、神戸では交通のとても不便なところがそんなにあるのかどうかわかりませんが、田舎の方だとバスが廃止になったりと、一定の交通の足がなくなってしまうようなところもあります。そういう人口が減少していく中で、コンパクトなまちづくりをしていって、最低限そういった交通も確保できるような地域を設定しましょうという内容になっています。神戸のような都市部と田舎の方とは、とるべき施策はかなり変わってくると思うのですが、神戸市でもコンパクトなまちづくりという、立地適正化計画という名前になっているのですが、今後、人口が減少していく中でも、このエリアは人口を維持して、今後のまちづくりを積極的にしていこうというような計画をつくっていただきたいと思います。そういったところには、国土交通省から重点的な支援をしていくというような話になっております。先ほど委員の方から維持管理が大事という話もありましたが、そういった、いろいろなところに重点的に支援をできるような法律改正と制度設計をしておりますので、神戸市、兵庫県とも連携して取り組んでいきたいと思っております。

○会長

ありがとうございます。

今、お役目上、制度のお話をかちっとしていただきましたが、いろいろとまちを見ていらっしゃると思いますので、そういう目から見て、今の神戸の都心はどうですか。個人の意見で結構です。

○オブザーバー

私はまだ近畿に来て3カ月しかたっていないのですが、ここに来る前はタイのバンコクに3年間いました。そういったところから来ると非常に整然としていると思います。観光の視点からいうと、先ほどから外国人向けの案内が余り整っていないというお話がありましたけど、完全に個人的な意見ですが、日本人で神戸を知らない人はいないと思いますが、外国人は、東京と京都とあとどこかという感じで、神戸はなかなか最初に出てきません。

そういう中で、外国人にも来てもらえるような、神戸といえばこれというものがもう少

し海外向けにPRできるようになれば、目玉になるものがあれば神戸に行ってみようかなというようになると思います。今ですと東京に行って、京都に行って、ついでにちょっと大阪に行くという、タイから行っている人たちはそんな感じになっているので、そういうものがPRできるといいかなと思いました。

○会長

まさしくそこです。今日のテーマ、神戸らしさとは何か、神戸の都心全体でそれをどうつくっていくのかは、今おっしゃった、まさしくそのあたりをご発言、ご指摘いただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○委員

来られる方、それから住む方、この2つの視点で神戸らしさをまとめていく必要があると思います。医療関係も含めてですが、優秀な学者たちが神戸に来て住むというふうにしていく必要があると思います。勤めるのは大阪でも、どこでもよいのですが、とにかくそういう人たちが神戸に住みたいと思ってもらう必要があります。そのための生活基盤整備をどうするかということの一つの提案として、医療と教育、この2つを充実させていく必要があると思います。そうでないと海外からはなかなか住んでもらえないと思います。

しかも、知的レベルの非常に高い人にとっては、そういうことが一つの大きな評価になると思いますので、幸い国際学校も結構ありますので、これを行政として支援しながらでも充実させていく必要があるのではないかと思います。

それから、先端医療については、施設がいろいろありますが、その中で特区制度をうまく利用して、海外から優秀なお医者さんが来て、自国の人たちに手術などの、医療行為をすることが認められるような制度をつくっていかないと、外国の優秀な方は住んでもらえないのではないかと思います。

あと、来訪者の件については、いろんな意見がたくさんありましたけども、昨日たまたまテレビを見ていましたら、大型観光船を東京につけたいということで、100億円ぐらいかけて新埠頭をつくるということ、報道していました。その一連の中で、着いたらそのまま家電量販店に連れて行って、大量に物を買わせて帰らせてしまうというのではなく、少し文化的なこともやってもらわないといけないと思います。

この前、鹿児島へ行きましたら、鹿児島にも台湾の大型クルーズが来ていまして、鹿児島の歴史を巡るバスが、30台ぐらい動いていました。

神戸はそれに負けないぐらいの歴史的な施設が、たくさんあると思いますので、そういうものをどのように結びつけていくかということを考えていくなど、来訪者と市民という、区分けの中でいろんな政策を検討していく必要があるのではないかなと思います。

○会長

ありがとうございます。

今の話は新しい市民をつくるというか、誘致することなども考えながら都心の姿も議論

すべきだということですね。

○委員

そうです。

○会長

わかりました。医療産業都市についても、第1回目のときにも、たしかご発言いただいたと思いますが、そのあたりを絡めていくというのは重要なことかもしれません。ありがとうございます。

ほかにどうでしょうか。お願いいたします。

○委員

一つ質問ですが、いただいている資料の各国の比較の中の、位置図というところで、半径2.5kmの円が書かれているのですが、この範囲が都心というふうに認識して、今日は議論をしているのでしょうか。それに比べると、参考資料でいただいている地図は、1キロ、2キロ弱ぐらいの範囲になっています。結局どこまでの議論をするのか。2.5を範囲にするということであれば、2.5キロの円の中というお話になるのですが、基本的にどの範囲での議論になるのでしょうか。

○若林都心三宮再整備担当課長

この半径2.5キロという形で、黄色で円を書かせていただいておりますのは、おおむね規模を比較していただくためだけにつけさせていただいたものでございます。範囲につきましては、第1回検討委員会の際にご説明させていただいており、都心というものをおおむね新神戸から三宮、元町、ハーバーランドに至るエリアということでご議論いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員

ということは、参考資料の地図の範囲が都心であるということと理解していいのですか。

○若林都心三宮再整備担当課長

はい、そうです。

○委員

そういうことを前提としますと、元町は各町のほうで、夜12時ぐらいまで電気をつけているということがあります。人口的に言いますと、震災後も2.2倍、2.3倍から3倍にここ20年でなっています。それも、25歳から35歳の女性の方が非常に増えているという現状があります。そういうことから見ると、元町の場合は、JR元町、阪神元町、阪急の花隈駅と、いろいろな路線が乗り込んでいるので非常に利便性が高いということで、人が増えています。

ということは、都心全体で考えると、やはり交通の手段というのが重要だと、私自身は思います。この3月にシンガポールに行ったときに、現地の方から「My Transport SG」といわれるアプリを落とすように言われて、落としたんですけど、それを持つ

とシンガポールのバスが全部乗れるようになったということがありました。外国に行ってバスに乗ったのはシンガポールが初めてで、ほかのところは怖くて乗らなかったんです。

外国人の方はもちろん、日本人の方に対してもこのような情報通信分野の発達とリアルな交通や、生活などを組み合わせるなど、複合的に、サポートしていただくようなハードとソフトを組み合わせたものを作っていただけると、もっと全体的によい方向にいくのではないのかと思っております。

私どもの店も、この1月に免税店の許可をとりました。従業員も税務署も絶対売れないと思っていたのですが、5月の連休以降は、着実に売れていっています。中国人や台湾人が来ているのですが、うちの従業員は、誰も外国語をしゃべられなくて、物を持って来て「これがよい」と言われたら、それを売ればいいだけなので困らないのですが、非常時のために置いているタブレットの指さし会話集で何とかしろということをやっています。いろんな情報分野を使えば、外国語の問題も含めて対応できますし、表示の問題ももう少し情報分野を使って、皆さんにとってストレスのないような都心のあり方というものを考えていただければ一番いいのかなと思っております。

特に、神戸は効率都市と言われて発達してきたと思いますので、もっと効率に重点を充てていただければどうかと思っております。

#### ○会長

ありがとうございます。

冒頭、移動性を高める、点から面へという話がありましたが、このあたりは、市民も観光客も同じで、今お話があったように、情報のツールをうまく使いこなしながら、便利で、安全安心に移動できるということは大変重要なことです。ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

#### ○委員

資料をお配りしていただいたので、ご覧ください。

事務局のほうから、各国の事例がご紹介された資料4の話がありましたが、この資料4を拝見しますと、それぞれのまちがテーマを持った施策をして、いい例をたくさん挙げていただきまして、いい資料だなと思えました。

それで、夜間景観の件をまとめてきましたのが、この参考資料ですけれども、最初のページの冒頭に3種類、4枚の写真を載せております。夜の時間の整備に取り組んだところ、エリアそのものも活性化したという事例を、ニューヨーク、ボストン、ソウルから挙げさせていただきます。詳しくは、文言を書いていますので読んでいただいたかと思うのですが、滞留空間を延ばすというお話が出ていましたので、夜時間をうまく使って滞留時間を延ばしていただくというのは、非常に大事だと思います。

そして、1枚目の下の段は、勝手に美しくならないということですが、例えばシンガポールでも、30年前は今の状態ではなくて、わずか15年ほどで今の状態になっていきました。

計画を立てて20年ぐらいの間に今に至ります。

実は、各国が、余り長い時間をかけずに、決心したところから一気に、大体20年から25年という時間で仕切り直している。私の場合、年に4カ所ぐらいの調査に、海外に行きますが、目をみはるようにならなくなってきている感じがこのところしております。次のページをめくっていただきますと、その例を挙げさせていただいたんですが、例えば事務局資料にもありました、ハンブルグです。こちらはハーフェンシティということで、旧市街の開発と新しい建物や駅のリノベーション等を一気にとりかかっているんです。マスタープランをつくって、その中には、例えば、古いものに対してどのように直していき、そして魅力化して、写真に撮りたくなる場所にしていくというようなことが照明なんかもちろんそうなんですけれども、必ず折り込まれています。それが、マルセイユ、ジェノバでも、それぞれ新しいものに対しても思い切った施策をしています。マルセイユは港湾都市ですので、一番の目玉はヨットのとまっている風景ですが、今、夜にそのあたりを歩きますと、LEDで桟橋がブルーに光っておりまして、すごい景色なんです。

こういったことを考えてまいりますと、資料の写真を見ていただいてもわかるように、神戸の場合、日本一の夜間景観都市というイメージがあると思います。それは、遠景のビューです。冒頭で末包先生からもご指摘があったように、六甲山からの遠景のビューは日本の三大夜景と呼ばれて、観光のうたい文句になってきましたが、最近は新三夜景というものも決まったりしたりしています。実は今は、1個の建物ではなくて周辺を捉えた写真ですが、一般の方がよく写真を撮られています。ウェブサイトにも上げてくるんですけれども、神戸の夜景は余り上がってきません。ポートタワーなどがわずかに、同じ角度のものが上がってくるぐらいです。

この近景に対しては、頑張って施策を行ってききましたので、随分変わったと思います。この3年ぐらいで整備も進んできました。随分変わったと思うんですけれども、この目線に近いところの頑張りが非常に大事だと思います。

そして、神戸らしさを夜間景観の立場からいうと、まずは遠景夜景の整備、近景夜景の整備ということで、遠景は山から、近景は海からということになります。そういう意味でいくと、都市港湾の魅力というのが、横浜か神戸か、ライバルは一つしかないと思うんです。

横浜は象の鼻公園の整備等で、夜も非常に散策のしやすい景観をつくっています。神戸も頑張っております。皆さんにご意見をお聞きしたいんですが、やはり都市港湾というものがとても重要ではないかと思えます。

そして、もう一つ、これは皆さんも感じていると思いますし、私もいろんなお仕事にかかわらせていただいているのですが、神戸は、官民が一緒に一体となって考えられるところがすごく、交通、ユニバーサルデザイン、私をご紹介している夜間景観も含めて、この辺のことをやれたらいいのではないかと強く思います。

○会長

どうもありがとうございました。

この夜間景観は、最近いろんなところで、このまちはすごいなと思うことが多いです。神戸でもジャズナイトをやったことがあると思いますが、やはり観光客にとっても市民にとっても、夜の公園の競争力というのをこれからどんどんつくってほしいところです。ありがとうございます。

いかがでしょうか。地域の中で、まちづくりをされている皆さん、お願いします。

○委員

今、神戸市で問題になっているのは、神戸の人口が減少してきているということです。155万人が間もなく、博多のまちに負けていくということです。

では、なぜ神戸の人口は減少していくのでしょうか。神戸市や兵庫県でしっかり、なぜかということをやっているのでしょうか。神戸のまちが縮小していているということを都市全体で認識する必要があると思います。

市民が暮らしにくいから他都市へ行くわけであって、その点をまず改善しなければならぬのではないのでしょうか。観光も大事ですし、大事な点はたくさんあると思いますが、なぜ他都市へ行くのでしょうか。きれいな夜間景観も必要ですが、なぜ人口が減少していくのでしょうか。そこのところ、もう少し地道に考えていく必要があると思います。

私は東灘に住んでいます。山間で一般業者がミニバスを運営しておりますが、寂れてきたところが、今、随分活性化されてきています。市営バスであったら、全然だめだと、民間のミニバスが走ったら随分と活性化されてきているから、東灘は人口は減っていていないのではないのでしょうか。

神戸市や兵庫県が会議をやっているのですから、いわゆる商業施設を建てるとか、そういう話ではなく、まず交通の利便性というか、歩行者にとって何が大事なのか、市民にとって何が大事なのかという基礎的なところに、もう少し焦点を当てていったらどうでしょうか。

北野坂へは、行きやすいのでしょうか。観光といっても、神戸の名前は今上がってきているのですか。京都や大阪の話は上がりますが、神戸は聞いたこともないですけど、どうなっているのでしょうか。今まで神戸市の政策でセンター街をビル街にしてみましたけど、はやっているのでしょうか。JR、阪急、阪神が高層ビルを建てて、商業を持ってきて何をするのでしょうか。元町や三宮がどうなっていくのでしょうか。センター街どうなるのでしょうか。元町の商店街はどうなるのでしょうか。

ですからセンター街、いわゆる三宮の結節点のところに交通の整備をする。そこへ社会性の高いもの、病院の施設や教育の施設などを、JRや阪急にお願いしていくのが筋ではないのでしょうか。

商業施設を持ってくるのですか。では、大阪駅で三越伊勢丹はどうなったのでしょうか。

もう少し交通の整備をやっていただきたい。神戸は南北が坂道ですから、歩きにくいのです。加納町の交差点を見ても、昭和20年代30年代に建てた鉄の橋がそのままあります。あそこに1本だけ北に道を通していただいたんです。ロの字に通していったらどうなのでしょう。あるいは、北野町へ行く道を、三宮や新神戸から通していったらどうなっていくのでしょうか。市や県で交通や歩きやすい、動きやすいなどというところを重点的に考えていただきたい。

○会長

ありがとうございます。

今、お話があったことは、これまでも各委員から重ねてご指摘のところでもあろうかと思えます。

今回、三宮の動きがあるというようなことも踏まえつつ、シームレスな移動、冒頭にも点から面へという、お話をいただいたところですけども、このあたりが市民にとっても観光客にとっても極めて重要であると思えます。このあたりは我々、議論のベースとして持っていきたいと思っております。

○委員

私のところは、昔は歓楽街で、それがどんどん変わってきて、新世紀があったところが、今東急ハンズになっています。いい具合に飲食店街と繁華街という感じになってきています。

皆さんのお話もありますけど、道路を変えるとかそういうことはとても金がかかるわけです。だから、神戸市もなかなか動けないわけです。だから、金がかかっただけの金は取り返せるかどうかということも考えて、視点をしぼってやらないと話はできません、と僕は思います。いい話はいくらできても、それには必ず金がついて回るわけですから、その金をどうしてつくるかという話になってこないか、こういう話は難しいと、私は思っております。

センター街は1丁目、2丁目、3丁目に、道路がありますよね。2丁目は完璧です。ああいう道路にして、お客さんが来たときに、「神戸は感じがいいな」というふうに思うところをつくっていかねばならないと思えます。

元町は、6丁目、5丁目、4丁目まで行くと、大分さびしいので、これではいけないと思えます。まず、商店街があれば、そこを活性化して、それから発言をするということが大切だと、私は思っております。

神戸で一番の歓楽街の治安は、一生懸命県警と私たちが頑張ってやっております、それは私の使命だと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

センター街の2丁目を預かっておりますが、商店街というのは、そこにいる人たちだけのまちじゃなくて、神戸に住む人たちからもお預かりしている空間であり、例えば、来街者だけの空間ではないと思います。

それから、先ほど申し上げられたエリアの問題ですが、たまたま、神戸の都心は代表という形でしているだけで、僕はエリアは余り関係ないと思っているんです。神戸の中には、岡本もありますし、灘もありますし、須磨もあります。その中で神戸の中心部はこういう形という、玄関口としての一つのモデルケースをここでたたいているような気がしているんです。

その中で、自分たちが何ができるのかということをよく考えていくということが大事だと思います。例えば京都の河原町、大阪の心斎橋、三宮のセンター街という3つの商店街を取り上げて、絶対的に自信があるというものがあります。

それは何かというと、キャッチセールスとビラ配りが全くないことです。行政も警察もこの取り締まりはできないと思います。だから、大変失礼な言い方をするんですけど、点と点を結ぶという形でいきますと、例えばJRから、三宮センター街までの線の中で、ぶち切れるのはなぜかというと、フラワーロードの治安が悪いからです。フラワーロードは神戸市がやっているので屋台が出たり、ビラ配りをしたりやっているわけです。だから、切れてしまう。

我々は自分たちでやっていますから、その中で、まちが何をするのかという、自意識をまずしっかり高めていくということが非常に大事です。何でも頼むということではなくて、お預かりしている空間として自分たちは何ができるのかということをもっと住民が考えていく。

こういう問題は、都市の問題だけではなくて教育の問題にかかわってくると思います。それは例えば、納税意識の向上というのは、税務署と我々が幾ら話をしてもだめで、小学生のときからの納税教育ということで、文部科学省が入って、財務省と話をしなければいけないと僕は思います。

都市の問題も同じことで、どういうことをやっていくのかというと、教育のところから非常に大きな問題が出てくると思います。イベントとかハコとかだけではないです。今までいろんなところへ行った中で非常に大きな印象を受けた2つのまちがあります。一つは九州の小城で、もう一つは水戸です。ここには歴史的景観はもちろんありましたが、いまだに大きな印象を受けているのは、子供たちが、しっかり「おはようございます」という挨拶をするということで、その元気な姿を見て、このまちはいいなと思いました。そこに、一つふえたのが小樽です。小樽では、例えばこまっていたら「どこに行かれるんですか」というふうにたずねてこられます。いわゆる、「おもてなし」というのをやはり小さいときから教えていくということ。それが、神戸が憧れのブランドになっていくのではないかと思います。それを中心部が表現していくということです。

キャッチセールスもビラ配りの規制も警察などでは絶対無理です。それから、ごみを拾うことも、我々がまちでごみを拾ってもすべて拾えるわけではないです。でも、ごみ拾いを毎月定例の日に行っているということは、1カ月に1回やっても年間で12回、10年続いたら120回もやるということになり、毎日やっているでというような評判になってきます。だから、そのやっているという風景を見てもらうことが非常に大事だと思います。それも強制ではなく。

これからの都心の競争というのは、例えば新学校が何校入ったとか、貿易量がとてもふえたとか、そんなことではなくて、そういうことをしっかりやっていこうという民度の競争になってくると、僕は思っています。

#### ○会長

大変重要なお話、どうもありがとうございました。

行政の方がたくさんいらっしゃるんですけども、確かにまちづくりそのものを行政が政府の力を使って何かやるということに限界があることは、もう皆さんご承知のところですよ。ガバナンスの問題といいますか、皆さんがどういうふうパートナーシップをつくって、まちづくりを進めていくのかということところにもポイントがあろうかと思います。今のお話は神戸全体の、ある意味では象徴的な場所として神戸のイメージをつくっていける場という視点が大事で、これは、民の力でやっていくんだというお話だったと思います。ありがとうございます。

#### ○委員

今、ごみ拾いのお話が出ましたけども、私のほうは、10年ぐらい前から毎月2回、定例でクリーン作戦をやっておりまして、最近ですと1回のクリーン作戦に200人くらい来られます。時間を決めていまして、大概是会社員の方ですから、9時から始業するところが多いんですけども、その30分前に集合していただき、掃除道具を持ってごみ拾いをしていただくという形を10年続けています。

そういうことが評判になり、この日はごみ拾いの日だなど、近隣のマンションの住民の方も手伝いに来られるようになりまして、大分定着しました。

今日のお話はそれではなくて、冒頭に、コンパクトで点在しているけども、ネットワークを形成していく歩行者空間の整備が必要だというようなことを言われていまして、実際そのアンケートの中にも、交通機関の利便性のよさということがありました。一方でよくないところとして、新神戸駅、三宮駅、神戸駅がターミナル機能として中途半端であるということが上げられておりました。ということは、それぞれが独立したような形をとっており、各駅間の連携がなされていないと思うんです。

久元市長もおっしゃっておいりましたけども、新神戸駅から三宮駅経由で元町、神戸駅までLRTを導入すれば、歩行者にも優しいことになるのではないかと思います。

今でもシティループは通っていますけども、これも一般の自動車や業者の車に邪魔され

て、そんなにスムーズに行けるような状況ではないので、LRTであれば、専用の道路を  
通っていくような形になると思いますので、ぜひこれを実現してもらえたらなと思ってい  
ます。

それから別件ですけども、観光客、観光バスの話ですが、実は春の選抜のときに、野球  
関係者じゃない団体が三宮に一泊して観戦に来ておりまして、そのときのバスの運転手が  
ホテルの前でとまっているんです。なぜと聞いたら、球場には野球関係者の専用駐車場が  
あるんですけども、一般の観戦には利用されていないということで、どこにとめているの  
と聞いたら、ポートアイランドだということでした。あの辺まで行って、場所を探してと  
まり、朝の宿泊客を迎えに来るといようなことを聞いていましたので、以前に三宮東側  
に大きな観光バスのターミナルがあったんですけども、それがなくなったために、あちこ  
ちにバスがとまらなくてはならないことになり、それが渋滞の原因にもなっているように  
私は感じています。

そういうことで、いろんな利用方法があるんですけども、遊休地となっているみたい  
な、例えば東遊園地を、観光バスのターミナルに変えていくというのはどうだろうかと思  
います。

○会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○委員

私どものまちはトアロードと言いまして、最初に委員からもお話がありましたけど、神  
戸の主要なところは、点在しておりまして、北野町、居留地、南京町、ハーバーランドが  
あるんですが、トアロードは、それらの点を南北につなぐ通りであります。

私自身はトアロードで小売業をしているんですけど、大阪、京都、地方から来られる  
お客さんのほうが多くて、来られたお客様が神戸に来るとほっとする、ゆっくり買い物が  
できて、おいしい食事ができてということをおわれ、非常にうれしく思います。トアロード  
もいろいろ問題もありますけど、先日、都市計画も決定されまして、まちづくり協議会  
では、まちの景観形成市民協定ということで、まちの景観をよくしようというマニュアル  
を皆さんに配って、トアロードの環境をよくしていきましょうということをお呼びかけてい  
ます。しかし現実としては、歩道の環境にまだまだ改善の余地があるようです。看板が狭  
い歩道にせり出していたり、自転車が散乱していたりするんですけども、その辺をよくし  
ていかなければならないと思います。

私どもはやはり、あるものを維持管理していくがとても重要なことだと思っております。  
日々、私どもには青年部がありまして、当番制でお掃除隊ということをやっており、吸い  
殻など細かなごみは毎朝清掃しているんですけど、公共の、例えば関電のトランスボック  
スや電柱などへの落書きがひどくて、手に負えない状態です。先ほどおっしゃっていまし

たけど、子供の時からの教育を大切に、公共のものを大切にしていきながら、まちを自然ときれいにしていけたらいいと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

都心というのをどこまでどういうふうを考えるのかなというのも、あるんですけども、例えば、三宮駅のターミナルのことを考えていく中で、三宮と元町の交通機関の位置づけはどんなふうにしていくのか、駅の位置づけをどういうふうにしていくのかということも考えていかないといけないと思います。仮に三宮がよくなったとしても、元町が置き忘れられてしまうと、結果としてアンバランスが起こってくる。

そうしたら、それによって何か違うことが起こってくる可能性も十分あると思います。駅というものを考える中で、三宮と元町、もちろんハーバーもそうなんでしょうけれども、そういうバランスの中でどういう形で考えていくのかということベースを考えないといけないのかなと思っています。

それと、人口が減っているというお話をおっしゃっていましたが、確かにそうだと僕自身も思っていますし、もう一つの側面として、我々商業者が三宮に実は住んでいないということがあります。僕は高校生の時2年間で、三宮に住んでいましたけれども、それが今は違うところに住んでいるわけで、だから、都心居住を、特に商業者が都心居住をすることということを考えていくことによって、結果として都心の人口もふえますし、ひいては、ひょっとしたら今の営業時間が早く終わるという問題もよくなる可能性もあります。三宮、元町などの都心に住むことをもっと真剣に考えてみたら、変わっていくのかなと思います。やはり都心に住むことで、結果としていろんなことが起こるのではないかと思います。

もう一つは、ウォーターフロントですけども、特にメリケンから三突、四突にかけてのウォーターフロントについて、これからどういうふうにしていくのかということきちん想定していかないとならないと思います。今後の神戸の都心というものを考えるときに、ウォーターフロントというのは、やはり肝になると思っています。あんなにいい土地を40年間も民間企業に貸してしまうという発想が出てくるほうがむしろ怖いと思うので、やはりきちんと構想をたてて、その中でどういうふうに都心とつないでいくかという判断をしていかないとならないと思っています。

○会長

ありがとうございます。

もともと皆さんは都心に住んでいたわけで、今、おっしゃったように、これがいろんな都市構造の変化の中で空洞化していったと。新たな都心の機能としての居住というのは、大いにあり得ることです。ありがとうございます。

## ○委員

最近体験したんですけれども、土曜日に大丸の近くの朝日会館の前を歩いていましたら、若い娘さん2人が一生懸命、神戸市が作成したマップを見て、どこかを探している光景に当たりました。ちょうど目の前を通りましたので声をかけられまして、地図を見せられ、市立博物館はどう行けばいいんでしょうときかれまして。朝日会館の前ですから地元の人にはわかりますが、恐らく旅行者だったと思うんですけれども、近くにあるのにわからないんです。恐らくその地図を見ても北も南も全然わかられていないと思うんです。私は、委員をしていて恥ずかしいと思いつつ、ご案内したんですけれども、そのあたりで看板を掲げているのかなと見渡したところ一つありませんでした。例えば市立博物館などは新聞や雑誌等でPRしていますので、来られるお客さんは結構いらっしゃると思います。しかし、駅前でも神戸市作成のマップを見て、近場まで来ているのにわからないというのは、神戸市民として、問題提議をされているようで、少し恥ずかしい思いがしました。

やはり、そういった細かいところからも即始めていけばよいと思います。点であちこち行こうとされている観光客がいらっしゃると思うので、もうちょっと、そのあたりをもう一度見直してみたらいかがかなと思います。

LRT等の話が出ましたけれども、私は生まれてからずっと神戸に住んでおりますけれども、昔は市電でも花電車等を楽しめる仕掛けが結構あったんです。やはりアクセスの問題というのは、大事だと思うんです。LRTで行きたい箇所にスポット的に停留所等が設定され、私も乗ってみてあちこちめぐるとすると、神戸の知らないところがまだまだあると思うんですね。

話は変わりますけれども、昨今、富岡製糸場が世界遺産に登録されまして、各旅行社が即パッケージをつくりますと、世界からも観光客が来ているということです。地元民として神戸らしさというか、神戸に来てぜひとも楽しんでいただきたいというところは、点ではありますけれども、世界に示す箇所というのは、ちょっと見当たらないと思います。

地元民、それから神戸市民として、アクセスの問題も含めて、もう少しPRしてもいいのではないかとこのことを改めて見直してみたいなと思います。

## ○会長

ありがとうございます。

## ○委員

これまで各委員さんからいろいろご意見も出ていますので重複いたしますけれども、まずハードで言いますと、特にハーバーランドの場合は国道によってかなり分断されていて、お客様の足の流れを少しとめているというようなところもあります。そういうハード面でいきますと、どこのエリアも同じかもしれませんが、かなり長い時間なり、あるいは莫大な費用がかかるとお思いますので、まず、ソフト面でエリアなり、あるいは、まちとしてどんなことをやっていけるかということをお考える必要があると思います。

特に、少し小さい話なのですが、例えばハーバーランドであれば、まちを挙げて、エリアを上げて、ハーバーランドの日というようなものをつくって、そこはテナントさんだけではなくて、そこで仕事をしている人であるとか、あるいは土地の所有者であるとか、そういった方々に参加をしていただいて、まちを挙げて盛り上げるということがあります。

それともう一つ、外から来るお客さんだけではなくて、そこに住んでいる人も一緒に楽しめるまち、あるいは、いいまちというのを実感できるまちが魅力的なまちということだと思います。

特に、ハーバーランドは新たな商業施設ができておりますけれども、高層マンションができて、そこに住み暮らす人もふえているというような状況で、神戸の縮図みたいなところでございます。そういう意味で、ハードについて、当然行政の思い切った決断、判断をもって進めていただくというのもございますけれども、エリアとしては、あるいは、そこで住み働く者としては、まずエリアの中でのつながりといいますか、そこに住んでいる方とのつながり、それとまちに来られる方とのつながりというようなことで、精神的、心理的なものだったり、エリア、地理的なものであったり、要は神戸というのがつながっているまちだということを感じていただきたい。つながっている感というのをどう出していけるかというようなことを、考えていきたいと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

私は、生まれてからずっと三宮2丁目に住んでおります。ほかで住んだことがございませんので、比較のしようがないんですけれども、三宮近辺が我々の生活の範囲で、非常に愛着があるといいますか、先ほどどなたか、三宮におりたらほっとするというお話がありましたけれども、そういうほっとする、抽象的な言い方で申しわけないんですけども、ほっとするというのが、ちょうどいい感じですよ。そういう居心地のよさが、一番しみついてしまっているというのが、現在の私の気持ちでございます。

ハードの面でいろいろお話もありましたけれども、三宮駅に、恐らく商業施設が幾らかできるんじゃないかと思えます。先日、姫路の駅ビルを見てまいったんですけども、確かに従来の姫路とは全然感じが違っておりました。とてもおどろいたのは、みゆき通りが、以前の活気とは全然違っていたことです。

こういふことで、神戸と姫路とをどう比べていいのかわかりませんが、まち全体で、先ほど面という言葉がよく出ておりましたですけども、そういう部分で見ていかないと、ここだけよかったらとか、そういうことは必ず出てくると思えます。何とか神戸の底力をつけていかないとだめだと思えます。前の資料にもありましたですけども、神戸で働くところがないからというところが一番根本じゃないかと、私は思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

皆さんのお話をずっとお伺いしまして、もちろん答えは一つではなくて、私は神戸のまちというのは、最終的に経済の活性化につながっていくことになると思いました。皆さん方がおっしゃるように、居住者をふやすとか、来街者をふやすということをするために、交通や案内の整備、景観については緑や夜間景観、こういったものを整備していくという流れのお話だったと思います。そこから基本的なフロー、人を集めて経済を活性化するためのフローはどうなるのかという話につなげていただいて、今回こういったマスタープランみたいな形になるのかなと思いました。

その中で、私が、特にここに力を入れるとすばらしいんじゃないかと思っていますのが、実は、弊社も今スタディ中なんですけれども、夜間景観です。なぜ、私がこれを強化していったらいいと思っているかといいますと、神戸の強みはそもそも夜間景観にあると思うからです。ですから、その強みをさらにふやしていくために、ベイエリアであるとか旧居留地であるとか、そういった面でつなげていけるようなところの夜間景観をさらにきれいにすることによって、ふさわしいものになってくるのではないかと思います。

もう一つは、日本という国は安全だという認識は非常に強みだと思います。いろいろな外国の国を旅しますと、夜は食事をしたらすぐ帰ってくださいというところがあります。神戸だけに限らず日本は安全で、神戸も安全がキープされているということが認知されれば、夜のまちがきれいであり、かつ、そぞろ歩きができるということで、夜の滞在者数が非常に伸びると思います。

逆に、一番の弱みは、神戸は夜が弱いということです。特に我々が商売をしております、旧居留地も含めた元町地区というのは、8時、9時を過ぎるとほとんど人がいない状況になっています。ですから夜を強化すると、人が増えるという考え方なのです。増えるところにさらに増やす方法もありますけれども、ゼロベースのところを増やしていけるというところで、新しいビジネスもそこで生まれてくるのではないかと思います。飲食以外にも音楽を聞く場所であるとか、シアターのように何かを楽しめる場所というのが、いろいろ出てくるのではないかと思います。新しいビジネスを生むチャンスにもなると思うので、夜間景観を弊社自体でも今勉強している最中です。

○会長

ありがとうございました。

○委員

皆さんがいろんなご意見をおっしゃられましたので、どれももっともだなと思う中で、1回目のときにも配られた、311件の意見を拝見していて、大きな方向性にそれほど齟齬はないのかなと思います。もちろんハード面、ソフト面ではまだまだいろんな意見があるので、全てがそれで合うという話ではないのですが、神戸のまちの進むべき方向性に

関しては大きな違いはないのかなと思っています。

僕は青年会議所に所属しており、40歳までという年齢制限から考えますと、ここにいらっしゃる方は、恐らくほとんど先輩だと思います。僕自身はセンター街の人間ですが、センター街では理事長にもご尽力いただいて、私たち若手をかなり教育をしていただき、活用していただいています。そういった意味でも、「今、やろう」とか「こういうことを考えましょう」ということに、ぜひ若い人間を巻き込んでいただきたいと思います。

というのも、いやが応でも我々はここで、まだ生活していかなければならない世代ですので、そういったところは少し考えていきたいと思っています。

#### ○会長

全くそのとおりで、若い、これから神戸を背負って立つ人が主役になっていくというのは大事なことです。

#### ○委員

先ほどから皆さんのお話のとおり、神戸のまちの魅力、進む方向については、それぞれの商店街も含めてまちづくりの中で、いろいろ地道な取り組みをされて、その結果、治安もよくてきれいなまちということがよくわかります。

その方向性で、まちの魅力を上げていくというのは確かにそのとおりで、共感するところでは。一方で経済を活性化させ、減っていく人口に歯止めをかける、あるいは住みやすいまちにして人口流入を促していくという課題もあり、これを解決する方向性が出れば、皆さんの意見が一致している、まちの景観、夜間景観など、神戸の強みを活かしたまちづくりの継続につながるのではないかと思います。

いろいろ整備しても継続できる施策がないと、まち全体が生き残っていけない。最初の市長のお話にもありましたように、都市間競争力に勝っていく、あるいは、関西圏全体として生き残っていくためには、神戸の仕掛けをもっと、見えるようにした方がよいのではないかと思います。

また、関空から神戸へ海底トンネルをつくったらどうかというお話がありましたが、そういうハードの整備には非常に時間がかかります。前回もお話ししましたが、神戸には陸・海・空の全ての交通機関が整備されているので、それを活かすべきと考えます。

関空から神戸に観光のお客さんを呼びたいので、夜の滞在には神戸の魅力がないため、夜の滞在ができるようになればどうかというお話がありました。関西全体を観光される方は、京都や大阪も回られる。関空から大阪に入って京都に行かれる、関空から直接京都に行かれるという方もおられます。しかし、見方を変えれば、関空から鉄道やバス、船でも神戸に来ることはできます。神戸の夜が楽しく安全で、食事やショッピングなどを楽しめることになれば、例えば、観光バスで来られるお客様は、新しくできる新名神高速道路を使うことで神戸から京都に行くときに、その恵まれた南北の動線を使っただけ。大阪を回って渋滞に巻き込まれていたときとは違う動きが出てくると思います。

あるいは、京都ではなくても日本海側や京都の北の方面などに行くに当たっても、南北の交通軸、高速道路軸について、神戸は非常に発達している。そういう強みを生かすのも一つかなと、交通の立場から考えます。

それから、都心を活性化していく中で、ニュータウンも含めた神戸全体が発展していくためには、一つは仕事の間という部分がありますし、住むところという部分もありますので、今、既に住んでおられるところに、これからも住み続けていただきながら都心で楽しんでいただくために、東西南北の交通の流れ、住みやすくするための交通の整備をバスや地域交通の再生などとも絡めながら考えていくことについても、この場で方向性を出すべきと考えます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

大切にすべき神戸らしさ、神戸の強みということなので、2点ほど申し上げたいと思います。

一つは、歩いて楽しい都心というのが強みだと思います。表通りだけでなく、裏通りに入ってもとても楽しくて、いろいろな店があります。こういった魅力的な商店街や、オフィス街を大切に、適切にメンテナンス、リニューアルをして、市の内外から人を引きつけるような都心部を大切にしたいと思います。

もう一つは、よく異国情緒と言われますけども、港があって海外からいろいろなものが入ってきて、それをうまく受け入れて楽しいまちをつくってきたということです。これは、すなわち非常にオープンにやってきたということだと思います。ですから、外国の人、国内の都市の人、お金を持っている人、知恵を持っている人、どうぞ来てくださいというような形でまちづくりをやっていくことで、にぎわいのある都心が続いていくと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

交通事業者としまして、神戸の都心ということで、三宮のバス停は、三宮駅を中心としまして、東西南北に分散されていますので、こういう整備の中で集約できるものは集約できればいいなと思っております。ただ、バスターミナル的なものをつくりますと、バスの出入りに時間がかかったりということもありますので、交通の利便を妨げないような整備ができればと思います。

交通事業者の面ではなく、個人的な感想みたいになってしまうのかもしれないんですけども、神戸のよいところという資料3でございしますが、いろいろなものが出ておまして、ここに網羅されているとおりでなと感じております。

その中で、神戸の特徴を生かして再生する、整備するということを考えていきますと、

他都市がまねができないような、例えば自然環境でありますと、付与のものとしてそれを利用できますし、歴史的なものでは、異人館などがありますし、それから、他都市がなかなか追いつけないというようなものであれば、医療産業の話でありますとか災害の関係もございます。そういう神戸独自で他都市がまねできないような要素を活用しながら、エリアとして開発していく中で、周遊性ととも、ほっと一息休憩できる場所をエリアごとにつくっていただき、周遊とともに休むという、それをセットにしたまち歩きみたいなことができればと思います。例えばメリケンパークに行きますと、港を見られている方がたくさんおられますけど、まちの端っこになりますので、そういうふうな神戸の特徴的なところ、周遊しながら、休めるスポットみたいなものをつくっていただくと、観光の方だけでなく住民にとっても、神戸の雰囲気味わえるものができるのではないかと感想を持ちました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

いろいろお話をお聞かせいただきまして、大変勉強になるなと思いました。私自身が業務の中で、当社の鉄道を使って神戸に来ていただくための施策を検討する機会もございまして、その中で一度、神戸の老舗のスイーツや洋食などのお店をご紹介するという企画があり、そういったお店の成り立ち、例えば神戸港の開港の歴史や文化といった経緯を含めて、ご紹介したことがございました。その際に、私自身非常に勉強になりましたのが、何となく神戸はスイーツのお店が非常に多かったり、パン文化が盛んというイメージがあるんですけども、それには、きちんと歴史に裏打ちされた経緯があるということです。そこに住まわれてずっとご商売を続けられている皆様が、それを脈々と息をつないで来られたからこそ、今の神戸の住まいだったり、暮らし方だったりがあるんだと思います。それは、すなわち今の神戸の魅力につながっているということが、神戸ならではのということではないか感じておりました。今後、魅力、コンセプトを打ち出していく際も、急に出てきたというよりは、神戸らしい歴史、それからつながれてきたものの中から抽出できていけば、非常にすばらしいのではないかと感じております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

各エリアの個性をやはり充実していくことが一番大事だと思っています。北野は北野、元町は元町、旧居留地は旧居留地、それぞれの個性をつけて伸ばしていくことが大事だと思うので、各エリアの方々が自分たちで、どういうふうな個性を伸ばしたらお客さんに喜ばれるのか、心地よいのかということをご検討いただきたいと思います。

それを結ぶのに、例えば、シティループでありますとか、先ほどご提案がありましたL

R Tでありますとか、要するに人の流れをつなぐような移動手段を、考えていく。その中で、三宮はどうしても交通の結節点になっていくだろうと思います。やはりバスターミナルがあちらこちらに点在して、観光バスもどこへとまったらいいかわからないような状況では交通の結節点としての役割が担えていないということは、私自身も思います。

それから阪神、阪急、J R、新交通などが、案内サインを使い、バリアフリー的に、有機的に、結ぶことで、不便なところを解消していく。こういったこともやっていく中で、三宮が都心の中心的な役割を担っていけるのではないかなと思っています。

○会長

ありがとうございます。

都心のあり方をきちんと議論しましょうということと同時に、いわば引き金として三宮の動きが出てきそうだとしたことでした。こういうような出発点であったわけですがけれども、皆さんの今日のご発言も、三宮についてのご指摘が大変多いわけでありまして。このあたり、事務局としてどのようにお考えなのか、ご発言いただけますでしょうか。

○三島都心三宮再整備担当部長

三宮につきましては、本日の会議でもいろんなお話をいただきました。結節点であったりターミナルであったりという形、また、非常に多くの方が集まる場所というお話もありました。そういう形でいきますと、三宮駅周辺につきましては波及効果が非常に大きいと思っております。神戸のまちを活性化していくと、経済全体を活性化していくということでは、不可欠だと考えております。

その中で、皆さんもご存じだと思いますが、新聞等で、J Rや阪急で、駅ビルの建てかえの動きもございます。そういうことで、三宮駅周辺地区については事業化を見据えた、少し具体的な検討が必要ではないかと考えております。

そういうことで、この検討委員会につきましては、三宮を含めた大きな都心というところで、将来のビジョンということで、そのネットワークとか、それぞれの各区域の方向性とか、そういうのを打ち出していくものを検討する議論の場と考えております。

三宮につきまして、もう少し具体的な検討が必要だということで、事務局といたしましては、この会とは別に検討する場を設けて、少し具体的な検討をしていきたいと考えております。

○会長

今、三島さんからお話がありましたけれども、都心は言うまでもなく大変重要な政策領域ですが、さらに神戸の場合は、三宮に動きがあり、同時に議論するというのは大変難しいということで、新たに、三宮に関して焦点を当てた議論の場を事務局としては設けたいということでもあります。

三宮の動きについての議論が、都心全体の議論と両輪で動いていけば、議論としてはいい展開になっていくのではないかと、私自身も思っているところでございます。

今日はさまざまな議論をしていただき、ご意見をいただきましてありがとうございました。

また、第3回目につきましては、今日の議論を踏まえた上で事務局でも資料を整理してもらいたいと思っております。

では、事務局にお返しいたします。

○三島都心三宮再整備担当部長

大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

本日いただきました意見を、整理させていただきまして、次回を迎えたいと思っております。

なお、時間の関係で発言の機会がなかった、また言い足りなかったという委員におかれましては、事前に配付させていただいております指定の用紙に記入していただきまして、ファクスしていただくか、記載のアドレスまでEメールで送付していただくなどの方法で、ご意見を事務局までお届けいただければと思っております。

また、第3回の検討委員会につきましては、9月ごろに開催させていただきたいと思っております。日時、場所につきましては、決定次第お知らせしたいと思っております。

次回の検討委員会でご議論いただくテーマにつきましては、今回同様、事前にお知らせしますし、資料につきましても事前に送らせていただきたいと思いますと思っております。

今、お手元にチラシをお配りさせていただいております。神戸市におきましても、神戸の魅力とか強みにつきまして、もっと多くの意見を聞きたいということで、8月24日日曜日に市民会議を開催したいと思っております。会議の名称といたしましては、「もっとききたい みんなの想い、神戸の未来のまちづくり300人会議」と題しまして開催したいと思っております。これにつきましては、約300人の方に集まっていただきまして、本日ご議論いただきました「神戸らしさ、神戸の強み」について、ワールドカフェ方式といいまして、4、5人ぐらいのグループになりまして、お茶とかお菓子をつまみながら、いろんな議論をしていただいてご意見をいただくと、それを繰り返しやっていく対話方式の会議を進めていくというものです。その中で多くの市民の方々に思いを語っていただきまして、その思いを集めていきたいと思っております。

また、委員の皆様方におかれましては、所属する団体にもぜひお知らせいただきまして、ご参加いただけたらと思っております。また、チラシ等が必要であれば、事務局に言っていただけましたらご用意させていただきたいと思っております。できるだけ多くの意見を集めたいと思っておりますので、皆さんのお声から集まっていただくように、情報の拡散をよろしくお願ひしたいと思います。

#### 4. 閉会

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、最後に住宅都市局長の山崎より一言、ご挨拶させていただきます。

○山崎住宅都市局長

住宅都市局長の山崎でございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中お集まりをいただき、また、長時間にわたりまして、熱心なご議論をいただきましたことを厚く御礼を申し上げます。

次回、9月ということで開催させていただきます。その際には、また皆様方からたくさんのお有意義な意見をいただきまして、これからのビジョンづくりに反映させていただきたいと思っております。

本日は、本当に長時間にわたり、どうもありがとうございました。

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、これもちまして本日の第2回検討委員会を閉会させていただきたいと思っております。

本日は、どうもありがとうございました。